

【学芸員】

◎主な配属先、業務内容

■本庁

文化課



- 県内にある博物館や美術館の連携事業
- 一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）の整備
- 一乗谷朝倉氏遺跡の活用推進などの政策立案

■出先機関

歴史博物館

- 福井県の歴史、民俗に関する資料の収集・保存、調査・研究、展示の企画・運営、教育普及事業（歴史講座など）等を実施
- 館内には、福井県の通史を扱う「歴史ゾーン」、特別展示室と「昭和の暮らし」コーナー（昭和 30～40 年代の街並みを再現）で構成される「トピックゾーン」、博物館の収蔵庫をイメージした「オープン収蔵庫」、情報と映像を提供する「情報ライブラリー」があり、実物資料、ジオラマ、写真、映像などさまざまな方法で福井県の歴史と文化を発信
- 常設展示も含めて可変性の高い展示システムを取り入れており、収集、調査・研究の成果を随時、展示に反映することができる



歴史ゾーン



オープン収蔵庫



昭和の暮らしゾーン



特別展示室

若狭歴史博物館

- 若狭地方の歴史、民俗等に関する資料の収集、保管、調査および研究を行ない、特別展やテーマ展、関連イベントの企画・運営を実施



一乗谷朝倉氏遺跡資料館

- 国の特別史跡に指定されている一乗谷朝倉氏遺跡の調査・研究、展示の企画・運営、歴史講座の開催等、イベントの企画・運営を実施
- 新たな遺跡のゲートウェイとして令和4年10月の開館を目指して整備を進めている一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）の展示の検討



展示室



新博物館のイメージ

美術館

- 展覧会の開催、美術資料の収集・保管・展示、調査・研究、講座や子どもたち向けの鑑賞会の企画・運営を実施



第1展示室

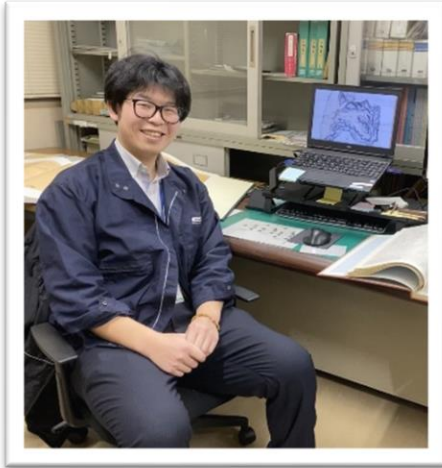


ミュージアムシアター



第4展示室

【学芸員】令和元年度採用



歴史博物館

伊藤 大生

(筑波大学大学院 人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻
歴史地理学領域一貫制博士課程 修了)



【主な担当業務】

- 歴史地理学を専門分野とし、絵図や地図、絵はがきなど、かつての景観が分かる資料を主に担当

※歴史博物館では、県内各地の歴史や生活に関するものを資料として集めて整理、保管。学芸員は、自身の専門分野とその周辺領域の資料を担当し、各資料について作られた時代や使われ方、歴史との関わりなどを詳しく調べ、県民の方々に伝えている。

◎ある一日のスケジュール

8:30 職員で一日の業務を確認、開館準備	9:00 開館、広報誌等原稿作成	10:00 学校対応	12:00 先輩や上司と昼食	13:00 印刷物等関係機関と打合せ	14:00 館内の資料の撮影・整理・調査	17:15 業務終了
--------------------------	---------------------	---------------	-------------------	-----------------------	-------------------------	---------------

◎福井県職員を志望した理由

理由は2つあります。1つは地元である福井県の歴史をだれよりも深く調べ、これまで知られてこなかった資料や歴史を発見したいと思ったためです。もう1つは、調べて分かったことを伝えることで、歴史のおもしろさや魅力をより多くの人と共有したいと思ったためです。

◎仕事をはじめて感じていること

展示や講演などでは、自身の専門分野を中心に、幅広い分野の資料を扱うことがあります。当館では15万点以上の資料を収蔵していますが、その中でどの資料を選び、どのような方法で、どのような言葉で紹介すれば、資料や歴史のおもしろさや魅力が伝わるのか、資料を調べながら日々考えています。答えはなく、そのつど考えに考えて形にしていく必要があるため、とても難しいと感じます。しかし一方で、選択肢も無限にあり、自分にしかできないやり方があると感じてワクワクします。

◎魅力・やりがい

県内の資料の収集・調査を行うなかで、これまで知られていなかった未知の資料に出会うことがあります。こうした資料に最初に出会えることは学芸員の大きな魅力です。また、展示を行う際には、県外の博物館から貴重な資料をお借りし、実際に触れることができることも魅力です。同時に、展示や講演などで、自分がおもしろいと感じるものを相手と共有できたときや、地域の人々の歴史に関する疑問にお答えすることができたとき、とてもうれしく感じ、やりがいを感じます。

◎採用試験対策

採用試験は3次試験までありました。1次試験は教養科目と専門科目の筆記試験でした。教養科目対策では問題集を一通り解きました。当日は問題数の多い数的処理から解くことをオススメします。専門科目では、日本史に関する専門的な知識のほか、学芸員に関する幅広い知識が求められました。範囲を絞ることは難しいので、日頃から広く関心をもって、書籍やインターネットなどで知識を得ておくことが大切です。2次・3次試験は面接でした。どのような学芸員になりたいか、どのようにして県民の方々に調査研究成果を伝えたいか、しっかり話せると良いです。

◎後輩たちへ一言

県内には80館以上の博物館や美術館があり、各館に専門をもった学芸員や調査員がいます。こうした県内の様々な専門家と意見を交わし、また地域の人々と接しながら県全体の歴史を取り扱えることは、県職員の醍醐味だと思います。そして県や地域の歴史を調べて残し、伝えていくことは、県や地域の新たな魅力を見つけ、未来に活かしていくことだと考えています。私たちと一緒に福井の未来を切り開いていきましょう！共に働ける日を楽しみにしています！